

ハンガリーで医療を学ぶ

岩手医科大学 5年 佐々木拓渡

留学概要

ハンガリーのペーチという街にある国立ペーチ大学の大学附属病院にて、神経内科と代謝内分泌科で病院実習を行います。

現地の患者さんは英語を話せないことも多いため、少しでもハンガリー語でコミュニケーションをとることができるように、その実習に先立って、ブダペストの語学学校で語学研修を2週間行います。

なぜ、ハンガリーでの実習を選んだのかというと、

- ①ハンガリーの医学部は留学生募集に積極的であり、グローバルスタンダードを学ぶことができること
- ②医療設備が十分とは言えない環境下で画像検査などに依存しない診断を行うことの多い東欧で、症候学、診断学を学ぶこと

が挙げられます。②についてですが、私は地域枠で入学したため、将来医療過疎地で医療に従事する義務があります。その点で、①はもちろん、②も私にとって価値があるのです。

ハンガリー・ブダペストについて

ハンガリーは東欧に位置する内陸国です。

ブダペストはハンガリーの首都で、ドナウ川は挟み西側のブダ地区、東側のペスト地区を合わせて「ブダペスト」が構成されます。

街並みは非常に美しく、ドナウの真珠、東欧のパリなどと称されます。治安も、日常生活を送る上で困ることはありません。むしろ、困っている様子を察して、話しかけてくれさえします。深夜でも危険を感じるようなことはありませんでした。



前ページの 1 枚目は、ブダ側の王宮のある丘から、ドナウ川を挟み国会議事堂を撮影したものです。ゴシック建築の豪華さがとても映えます。

2 枚目は、後に列聖した初代ハンガリー国王イシュトバーン 1 世を称えるため建築された聖イシュトバーン大聖堂の内部です。息をのむ豪華さと静けさで感動したのを覚えています。イシュトバーンの像が最奥中央に建てられており、また写真外ですがこの右にイシュトバーンの右手のミイラが保管されています。

語学研修

さて、ブダペストでは 2 週間の語学研修を行います。

ハンガリー語は、英語のような語順が正確に定められているような言語でなく、ラテン語や日本語のようにある程度語順の縛りがゆるい言語になっています(もちろん日本語と同様に語順で意味合いは変わります)。

だからといって、学びやすいと言われるとそうとは言えないと思っています。

英語では前置詞と格変化で助詞の働きを担っていますが、ハンガリー語は膠着語であり助詞の役割を後置詞と格変化で担うため、語尾が原型を留めなくなるほど長くなります。

そして、その活用が嫌になるほど多いのです。

動詞で言えば、まず 1/2/3 人称、単数/複数の 6 通りの人称変化、そのそれぞれに対格目的語の有無で 2 通りの活用(定/不定活用)、さらに現在形、過去形、仮定法がありこの時点で 48 通りの活用があります(その過去形も 3 通りの活用があつて...(割愛))。他にも可能を表したり、人称不定形や……。名詞も格変化・単数複数に加えて英語でいう前置詞にあたる後置詞(接尾辞)が数えきれないほど存在します。そしてその活用の全ては、その単語に使われている母音に伴い 3 通りの活用を持ちます(母音調和)。もちろんこのルールに従わない不規則な変化をとる単語も多く存在するため、1 単語ごとに辞書を引く必要があります。

これが、英語との大きな違いで、このハードルが学習のスピードを非常に遅くさせるのです。

発音は、母音は a/i/e の他に o と ö、u と ü を区別しなければならない点などは難しいですが、英語と違い、子音+母音の構成が多いこと、単語のアクセントは大方第一音節に与えられるため、字面を見れば発音が予想できるのは学習しやすいです(この性質のため、英語母語者のハンガリー語より日本語母語者のハンガリー語の方が流暢に聞こえるようです)。

こういった特徴を持つハンガリー語の基礎文法と、並行して体の部位や症候といったものの語彙や会話を教えていただいております。

来月は、ペーチ大学病院での病院実習の様子などを伝えさせて頂きたいと思います。